

第十節 社 会

1 「娘誘出につき取り扱い人立ち入り、内済証文」

天明三年（一七八三）

〔解説〕 伝五右衛門妹かねは、八郎右衛門の伴縫之助に誘い出され、二人は家出行く衛知れずとなった。そのためかねの兄は、家賤紛失を理由に八郎右衛門親子を訴え出た。八郎右衛門も訴答で息子を勘当する覚悟を決めていた。その後縫之助・かねは知人の木立村吉兵衛宅に身を寄せていたことが知れ、両村村役人や取扱人が仲に入り、かねは八郎右衛門の自家のつる方に、縫之助は八郎右衛門に引き取られることになり事件は示談となった。本史料は、両者の和解と、以後縫之助に農業一途に専念することを誓わせたものである。

差上申済口証文之事

一成沢村伝五右衛門が訴上候者、去寅十月廿九日夜、妹かね義ヲ八郎右衛門伴縫之助かねヲ誘出し候所、家内相改申候処、紛失物も品々有之候ニ付、早々所々相尋

候得共、行衛相知レ不申候所、風聞ニ承り及ひ候、去冬中ノ木立村名主藤兵衛馴合ニ而百姓吉兵衛方ニ罷有候由承り及ひ候ニ付、彼地江罷越し見届候所、縫之助かね兩人共吉兵衛方ニ罷有候ニ付、此旨村役人江断届ケ申候、彼等不埒相働申候段、御吟味被下置御定法ニ被仰付被下候様、伝五右衛門より申上之候、此段八郎右衛門御答奉申上候、八郎右衛門義近年至而病身ニ相成取逃罷有候、然ル処縫之助・かね兩人共申合セ罷出候ニ付、所々相尋候得共相知レ不申候所、木立村役人ノ当村役人江、縫之助・かね始末断届申来候ニ付、八郎右衛門ノ当村役人江願出候者、病身親ヲ捨置候而右仕合ニ御座候不孝者ニ御座候縫之助義勘当仕度奉存候段、御願申上候、全八郎右衛門ノ縫之助ニ誘出候様申含メ候義曾而以不仕候、其砌誘出候始末皆々不奉存候、兩人共何様被仰付候とも違背可申上候様無之、何分御公法^(定)被仰付可被成下候段、八郎右衛門ノ申上候、木立村名主藤兵衛・百姓吉兵衛兩人ノ御答申上候者、縫之助・かね兩人共ニ吉兵衛方へ罷越し申候者、兩人馴染合居候所、身之置所も無之、四五日之間差置給候様、実々

申候ニ付、私共義者元來伝五右衛門・八郎右衛門兩人
共ニ旧知之者故人魂仕罷有候間、右好身ヲ以難捨置、

無抛差留メ候而、早速成沢村役人方へ段々断届ケ置申
候所、其御紛失物品有之候由訴上候得共、紛失物之品

私共義者一向存不申候、御吟味奉願候由、藤兵衛・吉
兵衛兩人共申上候、右ニ付双方共逸々御吟味御座候

処、御吟味中御日延奉願上、双方共ニ得与異見差加へ
候跡者、一同得心之上内濟仕候趣意左ニ奉申上候

右誘出し候出入相糺候処、縫之助・かね兩人引放し仕候
ニ付、縫之助者八郎右衛門ニ引取仕、かね者伝五右衛門に

引取仕、伝五右衛門品々申分者扱人ニ貰請候、且木立村
役人并吉衛門も、全別心之義有之候義ニ而者無之候段、申

分是以扱人江貰請、一同和融致し然候処、八郎右衛門家
本与惣兵衛母つるより、伝五右衛門江無心之上、かね義

ヲつる方へ貰請、其上同人引請世話シ以何レ江相付遣し
候とも、かね義ニ付此末伝五右衛門も聊以故障無之候

筈、双方一同自得仕候、右与惣兵衛母つる并家付親類江
対し、縫之助方ニ而平日不行届心得違ヲ以不束之義も有

之候得共、是以扱人江貰請、扱又縫之助儀家本つるに对

し候而、已來不依何事、実情ヲ以孝心ニ可仕候、猶又母
ヲ大切ニ孝行可仕候、殊更農業渡世出情仕御百姓取り統

可仕候段、和熟談内濟候、然ル上者右出入一件ニ付重而御
願ケ間敷義聊以無御座候、依之双方并親類共、村役人、取

扱人一同連印ヲ以濟口証文上申候処、仍而如件
天明三年卯ノ
六月

都留郡成沢村
訴訟人 伝五右衛門

同村
相 手 縫 之 助

右同人親
同 八郎右衛門

同郡木立村
名主 藤 兵 衛

同
同 吉 兵 衛

組頭 萩右衛門

成 沢 村

伝五右衛門
門親類 伝兵衛

渡辺富右衛門日記
卯年日記覚

五人組 平左衛門

二月廿三日

伝馬

加右衛門

同

同廿日

同断

与右衛門

八郎右衛門
門家本親類 与惣兵衛

同廿二日

同断

伝十郎

同

同廿日

同断

萩右衛門

家付 小左衛門
親類

同

同断

民五郎

(以下名主・組頭・扱人氏名略)

同

同断

源兵衛

久保平三郎様

同

同断

長兵衛

御役所

(鳴沢村役場蔵)

同

同断

市右衛門

同

同断

文右衛門

同

同断

仁右衛門

同

同断

由兵衛

同

同断

惣右衛門

同

同断

平次郎

同

同断

儀右衛門

同

同断

平作

2〔渡辺富右衛門日記〕 安政二年(一八五五)
〔解説〕 幕末、維新にかけて活躍した鳴沢村の名主富右衛門が、安政二年から明治十一年(一八七八)に至る幕末の動乱から明治新政へかけての動きを、広大な富士山入会山をかかえる山村の立場から書き綴った貴重な記録で、破損部分が多いのは残念で、ここではその一部を紹介した。

同

同

平次郎

同	同断	文右 <small>〔</small>	雨十日 麦蒔 伝馬 与右衛門
同	同断	倉右 <small>〔</small>	雨十一日 山見 休日
同十八日	同断	国右 <small>〔</small>	雨十二日 休日 大日祭り 念仏
同	同断	源五右衛門	少雨十三日 休日 念仏 雨止 源六郎 桶結
同 十九日	同断	栄右衛門	雲 <small>〔急カ以下同</small> 十四日 急休日 秋立 伝馬 与五右衛門 源一郎 麦蒔
同 廿八日	同断	万 吉	天 十五日 麦蒔 伝馬 増右衛門 多次右衛門
五月廿六日	同断	民 兵 衛	薄雲 十五日 うない 伝馬 軍平伴甚右衛門
同	同断	藤右衛門	天 十七日 急休日 あわぼふち
同 廿四日	同断	両 五 蔵	天 十八日 麦蒔 伝馬 新太郎 三左衛門
同	同断	善右衛門	天 十九日 大嵐村へ行 暮八ッ帰る
同 晦日	同断	萩右衛門	天 廿日 麦蒔 伝馬 徳右衛門 幸兵衛
同	同断	長 兵 衛	〔 〕 一日 麦蒔 伝馬 治郎右衛門 清右衛門 歌
八月十六日	同断	源 兵 衛	右衛門 日雇勝之進大嵐蓮花寺上人様御
同	同断	半右衛門	出 秀作様御出 蚕病 御示祈禱
同	同断	弥一右衛門	〔 〕 〔 〕 豆蒔 <small>アヌ</small> 日雇 源右衛門
同	同断	平右衛門	〔 〕 廿三日 大嵐村源助所江手伝麦蒔を
七月			天 廿四日 豆ぶち
八月			天 廿五日 山見休日 祭礼 少々風吹 夜々雲
九月 天六日 天七日 夕雨八日 雨九日			雨 廿六日 わらじ作 あすぶ 夜々あがる

- | | | | | |
|---------|------|--------------------|-------------|-----------------------|
| 天 | 廿七日 | つぶごとい | 十一月 | |
| 天 | 廿八日 | 芋ほり 八ッ時分谷右衛門すけ | 少々雲天 | 朔日 屋根ふき 休日 |
| | | 震 暮六ッ地シン | 天 | 二日 屋根ふき 夕々雲 |
| 天 | 廿九日 | こいだし 粟すくた稗ぼし | 天 | 三日 屋根ふき 暮六時雨 掛とり |
| | | 門 | 天 | 風雪少々四日 わたまし仕度 夜日より風吹 |
| 天 | 晦日 | 少風 夕雨 山見休日 | 天 | 五日 移徒ふるまい |
| 十月 | | | 天 | 六日 わたましあとかたつけ |
| 天 | 朔日 | 山見休日 鍋湯掛手伝 竹次郎 夜々雲 | 天薄 | 七日 役場手伝 屋が里こみかたつけ |
| 雲 | 二日 | だらかつき 日雇源右衛門 蚕吉へ源 | 天 | 八日 ごみかたつけ 暮六ッ時夕方雨少々 夜 |
| | | 〔 〕 | 地震 | |
| 〔 二日カ 〕 | | 夜五ッ八分時分大地震 夜中小地震 | 天 | 九日 水上こ屋ふきがい 暮六ッ時へんじ |
| 天 | 三日 | 木伐 日雇源右衛門 夜〔 〕 | 天 | 十日 山見休日 昨夜くれ六ッ西村に勘兵衛に |
| | | (以下破し) | | あふなき事ある |
| 雨夕々 | 天廿四日 | はふきこ志らい | 天 | 十一日 休日 火防 秋葉山村代参立札あつら |
| 天 | 廿五日 | 小志はぎ 休日 | | い |
| 天 | 廿六日 | 屋根ふき | 天 | 十二日 こ屋やが里 夜四ッ地震 風吹雨雪少 |
| 少雲天 | 廿七日 | 天井こ志らい 夜風 | | 々ふる |
| 天 | 廿八日 | 天井拵 暮六風 | 天風少々雲少々 | 十三日 そふじ 日雇源右衛門 |
| 天 | 廿九日 | 屋こほし | 少々天少々雲少々雪夜風 | 十四日 御年貢大割 |

天 十四日 御年貢大割 源右衛門日雇

天 十五日 御年貢勘定 貯穀見分あり 昼夜宿い

たし 源右衛門日雇

天 十六日 御年貢勘定 五ッ時地震 暮六ッ時少

々風雪少々ふる 夜天気 休日

天 十七日 御年貢取立 源右衛門日雇

十八日 天 少々風 役場へ手伝

十九日 天 少々風 木伐 与右衛門 源右衛門日雇

廿日 薄雲 大嵐縫右衛門殿に小海行 日雇与右衛門

木伐

廿一日 少々雲 天 富作帰る願立中手伝よばれ幸右衛

門「」

廿二日 少々風 天 水上ニ而木伐

廿三日 天 七ッ過風花雪 水上ニ而木伐 甲府江釜の

手紙を書

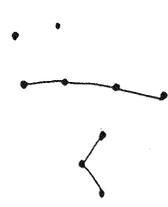
廿四日 薄雲 夜天 水上ニ而木伐

廿五日 天 こいだし 水上ニ而木伐

廿六日 薄雲 七ッ過少々雪 細工 夜五ッ前々天 陽

気わ志づかにて月星共にひかりあり 富士にも

あさわ小雲もなし



廿七日 天 内の細工 夜中志つか山にも雲なし 星あ

いの時刻わ寅(マ)のにて月星共にひからすくも

らす 何方にも雲見へす 日雇源右衛門

風わ少ニ付



廿八日 天 山見休 魔王釜納 幸右衛門届ケ

をたたやかな雲なし

(以下破レ)

兎狩に行

「」六日 天 甚之丞家細工夜八ッ過々「」

十七日 天 経木まわし 朝細工

十八日 天 経木まわし

元日 天 おだやかにして大によし

十九日 天 薄雲 仁右衛門 大神宮細工ちがさき出火

二日 天 はつよりあい 大嵐村へ年礼に朝行

夜「」

三日 朝天 四ッより雲 八ッ少々雪 仁右衛門 徳

廿日 雪ふる 同人内細工 夜の天

四日 天 やすみ 右衛門 弥右衛門より金受取 夜の天

廿一日 天少々雲 同人わ細工

五日 天 よりあい

廿二日 天 同人わ細工 新倉村の金受取

六日 天 とやへきドぶちに行 手習子共廿六人此日よ

廿三日 天 同人わ細工 民右衛門江金貸 仁右衛門の

受取 富作江作料渡ス

り世話

廿四日 天 昼九ツの雪ふる 夜あがる ながし板

七日 天 内寄合

廿五日 天 経木勘定四人江金渡ス 栄三郎江金貸 暮

六ッ地志ん

八日 薄雲 夕立 祭り 休日 寄合

廿六日 薄雲 やすみ 嘉左衛門江金渡ス 朝多右衛門

の金受取

九日 天 やすみ 十日 天 少々雲 夕の南風吹 夜の雨

廿七日 天 障子はり 源右衛門江金貸

十一日 朝あかり夕又少々雨 風吹 夜あかる

廿八日 天 もちつき 富作江作料渡ス

十二日 昨日より相談「」ハッ地震

廿九日 天 少々薄雲 政右衛門の小作金受取 甚之丞

の伝八郎利金受取 夜八ッ過の風

十三日 天 よりあい 夕の風吹 十四日 天 まことにをたやかにして よるもよし月ハ

十五日 天 高くなし 下(低)くなし 淡月

安政三年辰正月

十六日 天 ばんより少々雲 少々風 夕より大風吹 寺の無尽金受取

十七日 天 大嵐村へ無尽に行 大嵐村源助へ金貸

廿八日 天 大嵐村寺江行 せがき頼みふせ金式朱いた

十八日 天 やすみ 相談ない寄合 夜少々風

し 房藏平次郎与五右衛門万兵衛四人と

十九日 天 やすみ 相談

六ヶ敷の諸事咄いたし御上人様留守

廿日 天 少々薄雲 暮六ッ地震 夜雨 朝晴天

廿九日 天 村中よりあい 古役願ひえ下談」 夜老

(以下破し)

人之者にて私宅以来春中立復之儀者被下

十七日 雨雪 ばんぐ」 者不出候様申付連印に印

入而返答者村平助に給候ハ、立合可旨答

形無之

三月

十八日 朝迄雪 四ッ天

朔日 天 雲 八ッ両名主宅江行話之咄いたし候得共

十九日 天 宗門人別前書

是ハ極内々 大嵐縫右衛門金受取 藏

廿日 天 内よりあい 古役中名々役」うかがい

代金也

「」のはなしあり役場江金貸

二日 天 やすみ 夜名主方江寄合 古役一統其上ニ而

廿一日 天 よいに少々雪 此日迄宗門帳前書 平八郎

憤者仲人江具連無之候得共、跡々者村方取メ

弥五七 釜口ほつきりすけ

之上立合可申由答之

廿二日 天 昼が雲 内細工 夜が雪

三日 雲直ニ天 風少々

廿三日 雪ふる 八ッがあかる 雲 から紙下張

四日 天 内平八郎たらかけにすけ而半日私たらかけ寄

廿四日 雲 雪ふる から紙下張

合 暮六が雲 きりふる 大嵐蓮花寺江、古

廿五日 雲 雪ふる やすみ

役一統之談ニ而房藏殿ニ詫、与右衛門、私、多

廿六日 あさより天 内細工らんま

右衛門、幸次郎四人にて頼れ連帰り、入札之

廿七日 天 内細工らんま

談にいたす筈

五日 雲 きりふる 村寄合 古役者名主方江寄合、昼

廿二日 雨ふる 此日村方山之寄合有之候得共「」

右仁右衛門せがき他走(馳カ)になる 夕方大田和仲

夕タ風「」ニ付而者、無差構由申之

右衛門薬礼に同所伝次右衛門くる

廿三日「」 雲少々 夕立なり 霜 祭り休日 寺ニ而

六日 天 やすみ 夜郷宿ノ手紙くる 村寄合つけ談合

酒吞 谷村江下るべきに候得共、伝次右衛

いたし候得者、村方ニ而も頼み、頼れ申候

門殿申様、我等谷村江下るわ貴殿に収むと

七日 天 谷村江下り名主一統ニ而願書認申候

いふ故、私も谷村江不参、是ニわ少々訳あ

八日 天 夕タ雲 役所休日 城山地神祭

り、甚兵衛、五右衛門江金貸

九日 雨少々ふる 願書奉納申候

廿四日 夕立 祭り 休日

十日 雲 差紙戴頂婦村いたし、差紙大田和江渡申候(マ)

廿五日 天 麻蔴けすこね 夜山一件寄合有是に不参

十一日 天 谷村江下り大田和も出ル

廿六日 天 風吹 山売一件之寄合之上、名主宅ニ而私江

十二日 天 訴答呼出シ、古来仕来之通相談にて致と申

咄あり廿二日之如く村一統シ致者否無之、

付而

先立候儀者一切無構由申之 釜口江桑植ニ

十三日 天 郡中寄合にて、宿ひまなし相談やすみ

行 薄狩 日雇源右

十四日 雲風吹 此日も同しくやすみ 夜雨ふる すぐ

廿七日 天 雲少々雨 山寄合 湊(湊カ)苗種下し、三升手付

に天

九匁相渡、芽生之節銀三厘之勘定致べき旨

十五日 天 此日も同しくやすみ

印形致申候 日雇源右衛門

十六日 薄雲 訴答掛合いたし候得共不済「」より

廿八日 天 宗門人別改江手伝、惣人別増減差引帳認、

金受取

ハッ時ト表作うない

(以下破レ)

廿九日 少々宛雨 つがんば切干に行 弥一右衛門頼ミ

四月

に依三組火防日待いたし申候 夜地震

朔日 雨夕夕天 火防休日 きじぶちに行候 あと江小

立村年寄式人御出、山売一件ニ付私方江相

尋候得共留守故多左衛門江休、年寄重立候

者江掛合候得共、是わ一切差構無旨答申候

二日 雲 こいつけ 小立年寄儀兵衛殿老人寺江「」而

三日 雲 少々雨 山売一件村中寄合、又内寄合有之候

得共差構無旨答之候、夜又寄合

四日 天 九ッ前うない棒及祭り休日 経木勘定 夜

山売一件ニ付、昨夜取極頼来ル

五日 天 夕夕雲少々 こいつけ

六日 雲 山見に行 六ヶ村一同ニ而中道之半右衛門

殿小屋ニ泊り、此日みくぼ追行、見分いた

小や江帰 夕夕雨ふる 富右衛門 多右衛

門 半兵衛

七日 少々雨 四ッ夕雨ふる じいが小屋より幸助ほら

追見分いたし、中道江帰里、ない里んハさ

ん敷山上之境をやげん小屋場より少々上ニ

而、申酉之間より寅卯之間江境立、大つが

を大ずみ山東乃境を中道なか連江あて、下

之境を仁右衛門小屋より少々上江あて申

候、六ヶ村一同帰る浅河江郡中一件之寄合

之ついで山売之相談いたすべき旨、五ヶ村

ニ而書出ス

八日 雲 雨ふる 大木原ニ而畑うない 小地震

九日 雲 天 東白田ハ畑うない

十日 天 境野畑うない 伝馬幸助、又蔵 一日中薄

雲 夜七ッ地震

十一日 天 東白田ハ畑うない 伝馬九郎右衛門、庄吉

夜風吹

十二日 天 小麦作 廻状拜見

十三日 天 麦二ばん こいも「」ヌ夜薄雲

十四日 天 くさけづり 夜少々雲

十五日 天 志ばはき 夜霜まつり

(以下破レ)

十日 薄雲 そば地うない 伝馬又兵衛 入会山売銭割

賦請取 風少々

十一日 雲 そぼぢうない 「半蔵 夕夕雨ふる 夜 廿二日 天 桑もぎ 風吹雲をとばす 夜わ風雲黒くい
役人衆頼来る」 「 かつちのごとし

十二日 雲 少々宛 朝雨 谷村江下る 廿三日 天 朝やけいたし 八八ッ南にて雨ふる 桑も

十三日 雲 谷村ニ居て濟口書付拵 き

十四日 雲 少々 天 谷村ニ居て濟口書付、役所へ差上 廿四日 天 暮六六ッ雷鳴少々雨 蚕おこし

申候、詰掛り役八八ッ出役いたし留守ニ而候、 廿五日 天 少々夕立雲 桑きり

夕方帰陣ニ御座候、私共も昼昼ッ婦村 廿六日 天 少々雲 桑きり 日雇源右衛門

十五日 雲 八八ッ雨ふる 夜六六ッ過地震 出入和ボク 廿八日 天 蚕やとい和重郎 通玄寺江も少々宛やく手

休日、村よりあい 夜中大風雨 伝

十六日 少々天 雲 村よりあい 蚕おこし 夜中雨 廿九日 天 九九ッ時分雷鳴 暮六六ッ少々きり雨 蚕やと

十七日 雨 蚕おこし 若衆洗こり 村より合 老人之 いみなすける 民蔵娘志げ女夜迄すける

衆春中差縫一件ニ而御出有之 休日 夜わすぐに日より

十八日 雲 八八ッ過過雨 役人年寄小前一統和ぼく、連 六月

印帳認取極而、休日 夜雨 帰而桑もぎ 朔日 天 少々夕立雲 半次郎蚕やとい手伝 なすう蚕

十九日 薄雲 天 休日 夕立送り桑もぎ 二日 天 薄雲 十六十六きくり

廿日 天 桑茂ぎ 昨日出入一件 役人衆礼来ル、留 三日 天 火防 山見休日 昨夜西村にあぶなき事あり

守故親父預り置 火之番始る

廿一日 天 こぶさく 伝馬治郎左衛門、又右衛門、蚕 四日 天 まいかき 寺きさ女まいかきにすける 雷鳴

中民蔵始志げ女たのみ はじめ風吹 雨やまず

五日 天 まいかき 風少々吹 少々夕立雨

方名主宅「夫錢出金勘定 夜中雨ふる

六日 天 少々風 上之山江少々之夕立雨 まいかき仁

十七日 雲 雨少々ふる 山見休日 西湖村善右衛門殿江通玄寺和

右衛門娘くに女すける

尚様、仁右衛門殿三人ニ而行、大般若經六百卷

七日 雨少々直に薄雲 山見休日

取寄被下候旨御無心、十三ヶ年無利足ニ而借用

八日 少々雲 天 繭干 少々之雨 天 夜雲

仕筈 帰りに大田ハ徳右衛門殿江より右咄致ス

九日 薄雲 少々之雨 幸右衛門内外之介すける 麦か

雲少々 天 小麦かり 上吉田忠八殿と善助、

り

与兵衛あい人^(四)ニ而仁右衛門宅寄る「みいたし

十日 天 夕立雲 こふさく 雷鳴 繭干 雨無

金渡ス 幸左衛門が金受とる

十一日 天 雷鳴雨ふらず 繭干壳 こふさく 麦まる

廿日 朝少々雨 雲 こふさく

け

廿一日 天 夕立雲雨ふらず こむぎかり 日雇源

十二日 天 夕立雲少々 雨ふらず こふさく 日雇源

門 廿二日 天 夕立雲少々こふさく 日雇源右衛門

右衛門

廿三日 天 夕立雲少々 こふさく豆

十三日 天 夕立雲 雨ふらず こふさく

廿四日 天 こいつけ こふさく

十四日 天 幸右衛門、外之介すける 平次郎馬ふせ

廿五日 天 休日 茂兵衛無尽掛ル 役場に行役場が金

こふ^(三)カ

受取 夜出金之不承知申

十五日 天 ハッが雷鳴雨少々ふる 山見休日 幸右衛

門 廿六日 天 雷鳴 ハッ過雨ふる こふさく 二ばんご

門金貸

受取 昨日源兵衛殿無尽金掛ル、十六日夕

十六日 雲 山見休日 平次郎、甚之丞、繁右衛門が金

多右衛門殿、夜右之咄に御出 儀右衛門江

受取 昨日源兵衛殿無尽金掛ル、十六日夕

- 金貸
- 廿七日 天 夕立雨少々ふる こぶさく 二ばんご
- 廿八日 天 夕立雨少々ふる 二ばんご
- 廿九日 天 夕立雲少々 そば蒔 平次郎、源右衛門、
重右衛門すける 夜弥五郎、庄右衛門殿来
る、役場之一件ニ而
- 晦 日 天 夕立雲 八ッ過大地震 二はんご 源右衛
門江馬貸
- 七月
- 朔 日 天 九ッ込二ばんご 山見休日 役場ニ而惣方
掛合、衆中無心故和ぼく 市左衛門ヲ利受
取
- 二日 天 夕立雨少々 二ばんご 弁蔵江金貸善蔵馬
金
- 三日 雲 夕立鳴雨ふる 二ばんご 夜中雨ふる
- 四日 雲 夕立 二ばんご 源右衛門江金貸
- 五日 雲 夕立雨 夕方雲 二ばんご
- 六日 夕立雨 夕方雲 二ばんご 金引替之廻状見る
- 七日 雲 夕立雨 忠兵衛江金貸証文有 夕方名主病
- ニ而、源次右衛門と春中之論、私元取之由
申ニ付、右咄相方江候而者役場江懸合不致
候由申之、名主奥印之儀ニ付不承知申
- 八日 天 夕立雲 豆 二ばんご 八ッ過地震 権八
娘つる女すける 弁蔵ヲ金受取 夜中夕立
雨
- 九日 夕立雲 少々雨 草か里 夜房藏殿民右衛門殿
御出、先日之御咄有候得共不相濟 夜中雨
- 十日 雲 雨ふる 草か里干 夜雨
- 十一日 雲 夕方雨少々 草か里干 夜雨 勝兵江金貸
酒や払
- 十二日 薄雲 車や江行 夜きり雨 馨右衛門金貸
- 十三日 天 病犬か里 昨夜弥五左衛門内馬屋に居候馬
食いころし、今日犬か里いたし候得共とま
らず、夜また園右衛門馬ヲをなじくくい、
是わ^(たい) 志いたし候 私留守江弥五市、庄
右衛門、与兵衛、多右衛門四人ニ而源次右
衛門との一件江^(ママ)くる、不相濟
- 十四日 雲 雨少々ふる から紙はり

十五日 雲 天 から紙立る 昨夜宮内右衛門馬屋之か

べ五分板のふし穴よりくいやぶり、山犬内

江いり、馬を少々くい、犬を宮内右衛門打

ころし、男犬なり寺も無尽金受取

十六日 天 やすみ 民右衛門も金受取、徳右衛門屋敷

之分を寺江遺金考分受取寺江渡ス

十七日 天 大嵐村無尽江行 百姓代と若者之論江仲人

名前出ス

十八日 天 山見休日 若者勝兵衛も金受取

十九日 雲 雨少々ふる 苗こぎ

廿日 天 少々夕立雲 つぶこい入こいだし 夜寺よ

り合 諸事勸化加割相振り 世話人に頼れ

廿一日 天 祭礼 大嵐寺且家惣代として、嘉右衛門、

弥一右衛門、倉右衛門に頼みのじんぎに来

廿二日 天 草まるけ

廿三日 天 草かり 伝兵衛金貸

廿四日 天 山見 風祭休日 大嵐村役人衆御出、村方

春中差纏候処を諸事貴請、双方和陸仕候、

源次右衛門、多右衛門と憤者、是又私「」

伝次右衛門に貴請 夜雷鳴雨ふらず

廿五日 天 草かり 日雇源右衛門

廿六日 天 草まるけ 日雇源右衛門草かり

廿七日 天 草かり 雷鳴 雨他村江ふる 若者神楽宮

修覆「」連 夜地震

(以下破シ)

(八月)

「朔日」薄「雲」天 山見休日 若者神楽「」

二百十日

二日 夕立雲 天 山見休日 同断

三日 天 夕立雲少々 山見休日 同断 夜きりふる

四日 薄雲 天 休日 同断 昨日「場」用 夜少々風

吹

五日 天 夕立雲夕夜雷鳴大雨 夜明地震 からか

みはり 前々日々右御抜休日

六日 天 夕立雲 夕方雨ふる 通玄寺にて大般若之

世話人きめる、寺世話人も知る 夜中雨

休日 山見

七日 雨少々 薄雲少々 天 休日

- | | | | | | |
|-----|-----|--|-----|-----|---------------------------------------|
| 八日 | 天 | 山見休日 若者神楽今日迄 | 廿日 | 雨 | 大田和江行 大般若世話人相頼み、通玄寺 |
| 九日 | 天 | 少々風吹 草かり | | | 和尚御一同行 朝地震 |
| 十日 | 天 | 夕方薄雲 花火見物に上吉田江行 金比 | 廿一日 | 薄雲 | 源山道かり 郷藏道普請に行 |
| | | 羅様江参詣 夜雨 | ひかん | 廿二日 | 天 松わり 成沢・大田和・西湖大般若世話人通玄寺江寄談合取極 民蔵伴善之 |
| 十一日 | 雲少々 | 雨夕方ふる 草かり 夜雷鳴雨ふる | | | 進江金貸、十八日之一件 |
| 十二日 | 薄雲 | 雨ふる 小志わざ | 廿三日 | 雨 | 馬ふせ 昨夜東西村秋葉山石燈籠之九りん |
| 十三日 | 雲 | 少々雨 夜雨 松わり | | | 落 火防 山見休日 |
| 十四日 | 天 | 夕立雲 草かり | 廿四日 | 雨 | 繩ない |
| 十五日 | 天 | 夕立雲 少々雨 草まるけ | 廿五日 | 雲 | 八ッ過る雨 夜大風雨吹作物家悉 <small>(シ)</small> 荒ル |
| 十六日 | 雲 | 少々雨 草かり | | | 夜内雨風止 |
| 十七日 | 雨 | くろかき 夜あがる | 廿六日 | 天 | 休日 所々破損普請手伝 |
| 十八日 | 天 | 草かり馬にてかる 夕方多五蔵宅江長脇差入込、ぬきみをふり候故、同人からめとり | 廿七日 | 天 | 草まるけ 伝兵衛が金受取 |
| | | 役場江訴、役場にて内談、組之頭より合ニ | 廿八日 | 天 | 草まるけ 若者家さがし江口入いたし村内 |
| | | 而役所江願出、役之上取斗被下候様取極、 | | | 大勢にて相済 八右衛門内のみつ一昨夜ぬ |
| | | 甚之丞・伝次右衛門・多五蔵三人にて下り | 廿九日 | 天 | 少々雲 草まるけ 夜雲 |
| | | 舟津村迄行内済にいたし、書付取置申候、 | 晦日 | 天 | 草まるけ 夜少々雲 |
| | | 旅宿ハ伝次右衛門家 | | | |
| 十九日 | 雨 | 昨夜も今日之中にて右之通り | 九月 | | |

朔日 天 山見休日 日マそくあり役所に初納割賦書出

仕候

二日 雲 少々雨 草まるけ 父親病氣故法印様星祭

被下 夜中雨

三日 雨ふる 夜中雨ふる ふじ山江雪ふる

四日 雨 源市郎ト二軒之あめとり 夜雨

五日 雲 少々雨 徳左衛門ト仁右衛門江金貸、屋敷

之金なり件源右衛門

六日 雲 少々天 粟、そばかり 夜雲

七日 天 粟、そばかり

八日 天 草まるけ 夜より雲

九日 雨ふり 夜あがる

十日 天 粟かり 夜地震

十一日 雲 そばかり

十二日 天 そばぶち 粟まるけ 夜雲

十三日 天 少々雲 そばぶち 夜薄雲

十四日 雲 きりふり寒 粟かり 夜ハ雨

十五日 風雨 ハハ天 昨日ハ風雲ふ土不離 漆木苗

代勘定いたし候、請取有印形無之

十六日 天 少々薄雲 粟かり 粟ぶち

十七日 天 粟まるけ 御年貢上納 夜名主宅ニ而伝次

右衛門、源左衛門、甚之丞三人にて春中差

纏候外一件之本取私と申故、そふでなしと

答候儀不相分候而者役場江不立合」

〔十八日〕 〔大 初霜降〕 〔粟ぶち

(以下破し)

廿日 雲 天 薄雲 替 休日山見 今日より御神

託之 にて三日正月七分三分ト見置候ト有

夜雲

廿一日 薄雲 火防 山見休日 道祖神前にて百万辺夜

よりきりふる

土用 廿二日 雲きりふ里雨ふる 私風 夜村寄合

廿三日 天 耆昨日役人一同差紙相付候と名主昼過に沙

汰ス 村方年寄重立候もの憤イ貴度旨申候得

共貫下

廿四日 天 風病にて休なり 夜村中大田和一件寄合

廿五日 薄雲 通玄寺様大般若内見行 今日迄

廿六日 雲 豆かり 日雇源右衛門 病氣にて休居

廿七日 天 夕立雲

廿八日 雲 天 麦蒔 日雇市右衛門、儀右衛門、勿右

衛門、長兵衛 弁藏 源右衛門分

廿九日 天 市右衛門、勝之進日雇平次郎 手伝人角右

衛門、伝兵衛 繁右衛門、民藏内文右衛門

半人 私有病氣にて休居

晦日 天 麦蒔 弥十郎、弥五七、徳藏、源右衛門、

市右衛門

十月

朔日 天 山見休日 源市郎、徳藏にて内馬を引、明

^(見か)明日村玄海老様御迎、病氣見立之上薬調合

被下、通玄寺様無心申被下、寺に一宿

二日 薄天 雲 朝医者様又御覽被下、薬調合、歌右

衛門、宋之進内馬にて送り行 豆ぶち

三日 雲 雨ふる

四日 天 大嵐村源助殿仁儀に來、同人金貸、徳藏薬

取に明見村江行 豆ぶち 病氣にて休居

五日 天 谷右衛門内馬にて木付くれる

六日 雨ふる 歌右衛門東屋行、ついでに明見行薬持

來くれる 昨日御上人様來祈禱いたし

七日 天 五ッ時大地震 日雇源右衛門 夜中大風

竹次郎、宋之進と帰里

八日 天 風 竹次郎、宋之進内馬にて医者をもか

い、直に來、御覽被下源市郎、竹次郎にて

送行 昨夜連名之御差紙名主相付る、役人

衆にて病氣申立被下 仁右衛門馬にて医者

様送行

九日 天 いもほり 善四郎娘、谷右衛門、平作妻、

弁藏妻、幸右衛門伴、勿之介、弥五七 夜

中風

十日 天 平次郎塩買ついでに明見行薬持來 八右衛

門江金渡ス 病氣にて休居 寺江行荒神山

神女死靈除願

十一日 天 病氣にて休居 医者様弟子來、病氣うかが

い被下

十二日 天 少々雲 病氣にて休居

十三日 天 少々雲 病氣にて休居 弥一右衛門薬取行

十四日 天 病氣休居 仲山に小屋掛に八左衛門人をつ

れ行 夜少々風

十一日 天

十五日 天 大根取谷右衛門つける 房藏様、金藏、角

十二日 天 日雇源右衛門木伐

右衛門妻手伝 夕方老人谷右衛門薬取 円

十三日 天 日雇源右衛門木伐 夕方半左衛門殿来 九

通寺様見来、病氣うかがい薬調合いたし被

月十七日之一件内済之由口入始 御年貢割

下、此薬早々相廻り病氣よほどよし

江不出由答之 夜地震

十六日 天 病氣にて休居

十四日 天 朝通玄様御出 双方内済相済 日雇源右衛

十七日 天 病氣にて休居

門、多郎右衛門木伐手伝くル

十八日 天 少々雲 仁右衛門殿円通寺様に薬貰行 病

十五日 天 日雇源右衛門江戸も全来 夜風吹

氣

十六日 天 日雇源右衛門

十九日 雲 少々天 病氣に休居 夜少々風

十七日 天 病氣本腹大払

廿日 雲少々マタ雨 夜雨ふる 夜役人帰村

十八日 天 貯穀見分 由兵衛、大嵐源助も金受取

廿一日 「」少々風 病氣休居 平次郎「」

十九日 天 役場江行 咄あり

(以下破レ)

廿日 天 だらかけ弥五七すける

十一月

廿一日 天 平次郎こいだしくれる 休日 弥五七けふ

六日 「」雪

うちに 行 くれ而夜風吹

七日 天 八太郎江よこぎり「」き渡ス

廿二日 薄雲 竹次郎小さいく 古関村豊兵衛殿来ル

八日 天 日雇源右衛門木伐

廿三日 天 寺よばれる かいきの振舞

九日 雪ふる 夜雷鳴雨ふる 日雇源右衛門木伐

廿四日 天

十日 天 孫木山江登ル八右衛門人足をつ連登ル

廿五日 天 平次郎木伐すける 経木勘定

廿六日 天 平次郎木伐すける 夜雪ふる雨少々

廿七日 雲 天

廿八日 星会い 病気に不見 夜少々雪ふる

廿九日 天

十二月

朔 日 天 少々之風 魔王様江礼参り

二日 天 大嵐村伊助ト栄左衛門が金受取 夜風吹

三日 天 昼地震 村寄合 名主御礼

四日 天 夜中風吹

五日 雲 雨雪少々

六日 雲 雨少々 八右衛門に金渡ス

七日 雲 雨少々 夕方あがる

八日 天 明日平次郎木伐くれ

九日 天 役場へ行書物受渡し

十日 少々雲 天 甚五左衛門が小作金受取

十一日 天

十二日 天 夜風少々吹

十三日 天 源市郎塩買行

十四日 天

十五日 天 「

十七日

十八日

(以下破レ)

十四日 雲少々天 陽気みなみにて「」夜雲

十五日 天 雲夕方雪少々 夜八ッ過地震

十六日 天 南風 民右衛門江金貸 夜風

十七日 天 風吹

十八日 天 今日より三日祭 大嵐無尽金同村源取当村

良蔵殿へ渡ス、証文を書証人に成

十九日 天

廿日 薄雲 天 民右衛門へ金貸

廿一日 雲 弥一右衛門娘連出一件 雨ふる

廿二日 天 雲夕方雪ふる 夜内にあがる 弥一右衛

門娘談儀親分に成内よりやる伝次右衛門一

統

廿三日 天 風吹 弥一右衛門之兄弟誌親類、皆仁右衛

門江よばれる 夜が水出ズ

廿四日 天 雲 夜雪ふる 五ッ時地震

廿五日 天 薄雲 江戸が金来る 徳右衛門分仁右衛門

が金受取

十三日〔以下破レ〕

(以下破レ)

廿六日 天 水出ル 先頃が本郷にてわ水ある

九日 天 舟津門通寺江薬礼に行、帰りに小湖・大嵐

廿七日 天 休日 本郷にて念仏大日持に浅間江行

十日 天 朝地震 大般若勸メ廻る 休日 民右衛門

廿八日 天 朝雲 雨少々 天 風 夜薄雲

二月

朔日

十一日 天 少々雲 大田ハ江 大般若一件差縄取繕に

薄雲 夜風雪少々

行 平次郎すゝきかり 僧をとめる 夕方

二日 雲 夕方が夜半雪ふる

雪少々

三日 雪 雲 夜風少々

十二日 天 少々雪 夜雲

四日 天 夜雪

十三日 天 少々雲 大田江行差縄相済

五日 天 水流「」 夜中大雪

十四日 薄雲 雨少々 ほつきり 山神普請 大嵐源助

六日 雲 夕方天

より金受取

七日 天 夕方天

十五日 雲 薄雲 天 勧音様なげもちつき 夜雲 日

八日 天 少々雲

待

九日 天 暮六ッ時雪少々

十六日 天 少々雲 風送り 夜少々雨 山見休日

十日 天 薄雲 夜大田和重右衛門 一朝やけ 八左

十七日 天 雲 夜少々雨 休日

十一日 天 薄雲 夜大田和重右衛門 一朝やけ 八左

十八日 少々雲 天 風夜少々 南雲大嵐 今日大般若

衛門金貸

紐解にて寺へ行

十九日 少々天 小々雨 小々風 良藏家にて付般若へ
行 西湖江大般若之金半金渡ス 勸音様江

永之寄進少々致候

廿日 雲 きりふる 雲 民右衛門金貸

廿一日 雲 夜雨

廿二日 雨 雲少々 天

廿三日 薄雲

廿四日 雲 夜雲

廿五日 雲 夕方雨 夜雨

廿六日 雨 雲

廿七日 天 夜大風

廿八日 天 少々風 弥三郎だらつけすけ

廿九日 天 雲 雨 夜雨 うるしうゑ

四 月

朔日 朝少々雨 天 うるしうゑ

二日 天 花くもり

三日 天 夜より

四日 「 」

(以下破レ)

廿五日 雲 夕方雨 民 「原 陸野畑うない

廿六日 大雨 平次郎江細工手伝 「風雨

廿七日 朝天 雲 夕方雨 こいつけ

小満 廿八日 雲 きりふる 雲 半日神立 山見休日

平次郎江荒前細工手伝 夜雲 ふせぎ日待

平左衛門宅ニ而

廿九日 雲 雨 大嵐行寺にてふせぎ祈禱頼 夜雨 山

見休日 勝之進より半金受取

五 月

朔日 大雨 す々はき 夜天 富士山江雪ふる よい

に霜 祭廻文書

二日 天 山見休日 夜雲

三日 雲 山見休日 民右衛門夕作 今日迄霜祭り

七八日先一トツタ立有ト咄聞

四日 雲 東風 大木原、境野畑うない

五日 雨 雲 天 昨日より富士江雪ふる 「野ぎ

わ迄 夜天

六日 朝霜降霜柱立、桑江わ霜傷斗りあたる 天 薄

雲 八ツ時より山見休日 弟子富作帰る

夜雲 天

七日 天 雲 富士山江雪 粟時 弥三郎、源右衛門

日雇 夜雲

八日 天 堀之内うない 夜雲 昨日四ッ時一ト響雷

鳴

九日 少々天 雲 粟時 平次郎、仁右衛門日雇

十日 雲 小麦作 麻作

十一日 天 薄雲 雲 釜之口、桑原うない

十二日 薄天 雲 急休日山見

十三日 雲 天 雲 釜之口・桑原

(以下破レ欠)

二日 薄雲 つがんばまるけ 雲

三日 雲 雨少々降 大砂桑売

四日 雨 雲 蚕をこし

五日 雲 雨降 秋葉代参帰る

六日 雲 少々天 火防 休日

七日 雲 少々天 こふ作

八日 薄雲 少々風 こふ作

九日 天 薄雲風吹 耕作 夜風

十日 雲 大雨 雲少々雨 桑もぎ

十一日 薄雲 天 雲 蚕をこし

十二日 天 少々風 桑き里 五ッ時地震 夜風

十三日 雲 天 雲 雨 桑きり

十四日 雲 天 薄雲 風 桑きり

十五日 雲 天 風 桑伐

十六日 雲 少々天 雲 雨 夜雨 蚕やとい

十七日 雨 少々天 雨 蚕やとい平次郎手伝 夜中大

雨

十八日 大雨 源市郎江蚕やとい手伝

十九日 雲 少々雨 麦狩始

廿日 雨 まいかき始 半日休日

廿一日 雨 雲 風吹 まいかき 休日

廿二日 天 まいかき干 夜七ッ大地震、是より小地震

廿三日 雲 時々小地震 夕方きり雨 麦か里

廿四日 雲 薄天 きり降 まい売 紺屋が布来ル 伝

兵衛が桑代金受取 麦かり

廿五日 天 こふさく

廿六日 天 耕作 麦まるけ 夕方雲 日中少々薄雲

廿七日 薄雲 雷鳴 雨 夜中大雨 こぶさく

土用 廿八日「」

(以下破レ欠)

廿三日^(六月) 天 少々夕立 雲「」 草か里

廿四日 天 少々夕立 雲 草か里

廿五日 天 夕立雲 茂兵衛無尽行 阿弥陀堂江仏納候

ヲ役場江頼む

廿六日 天 夕立雨 草か里弥三郎すける 草か里も遠

来帰里、宝印江口聞、又夕方草か里に行

廿七日 天 夕立雲 草か里弥三郎すける

廿八日 雲 夕立雨雷鳴 富士山江少々雪降 苗こぎ

廿九日 雲少々 薄天 夕方雨降 西湖村善右衛門殿へ

行双方ニ而大般若之金渡ス

晦日 薄天 雲 少々風 草か里

七月

朔日 雲 大雨風 風祭り休日 のぼ「」ば書

二日 大雨風 少々天

三日 天 雲 四ツが山見 休日 阿弥陀様納メ

四日 少々雨 天 夕方少々雨 つぶごい入 法印帰

る 夜役所御上金一件咄有

五日 天 少々雲 夕方きり雨 草か里

六日 天 少々雨風 草まるけ

七日 薄天 きり雨

八日 大雨 辰右衛門、佐右衛門金貸

九日 雲 天 上金一件受印并役場咄あり

十日 雲 天 草か里 房も馬受取

十一日 「」まるけ

(以下破レ欠)

廿二日^(八月) 天 そばか里

廿三日 雲 雨 そばか里 富士山江雪

廿四日 雲 蕎麦か里 源兵衛金貸

廿五日 大雨 みつとり 夜も天

廿六日 天 粟かり 平次郎江金貸

廿七日 天 そばぶち 夜風

廿八日 雲 風雨 はいやき

晦日 雲 粟か里 夜天

九月

朔日 大霜 雲 四ツが山見 休日 天 幸右衛門江

金貨

右衛門半日来始

土用 二日 天 そばぶち

三日 雲 雪 辰右衛門来始

三日 雲 こいつけ 八ッる雨 富士山江雪

四日 天 少々風

四日 雲 天 こい志き

五日 天 谷右衛門来ル

五日 天 小麦蒔 伝馬喜右衛門 江戸の金来ル

六日 天 経木つき

六日 天 小麦蒔 伝馬徳右衛門

七日 薄天 経木つき 夜風吹

七日 雨 碓印「 土山江雪」

八日 天風 経木つき

(以下破レ欠)

九日 天 山とり 夜薄雲 大地震

十九日^(月) 天 雲 少々雪 伝次右衛門江手伝 夜風

十日 天 雲 経木つき 昨日大嵐栄左衛門の米受に

廿日 天 風吹 伝次右衛門江手伝

て代金渡ス

廿一日 天 伝次右衛門江手伝

十一日 雪 天風吹 経木つき

廿二日 天 伝次右衛門に行

十二日 天 経木つき

廿三日 天 伝次右衛門江行 夜地震 風

十三日 天 夜風吹 経木つき

廿四日 南風雨伝次右衛門「」

十四日 天 経木つき

廿五日 雲 伝次「」

十五日 天 経木つき 夜風

(以下破レ、十一月欠)

十六日 天 経木つき 夜雪雨

十二月

十七日 雨 天 雪 経木つきしまい 夜あがる

朔日 天 薄雲 仁右衛門「」

十八日 天 風花雪 経木勘定

二日 天 幸右衛門林小成沢木伐、経木にいたし 久

十九日 薄雪「」雲 す々はき

(以下破レ欠)

十八日(離月二月) 雲 夕方少々雪 夜少々雪 大嵐より朝帰る

伊右衛門相談人内極メ

十九日 雲 八ッ時より少々雪

廿日 少々天 雲 夕方夜中雪

廿一日 雲 少々雪 うさぎぶち行

廿二日 天 少々風 雲 志々ぶち行

廿三日 雲 伊右衛門相談人 竹次郎祝儀に行

廿四日 雲 雪ふる 夜中寒木花

廿五日 雲 寒木花ふる 夜中

廿六日 天 雲

廿七日 雲 小麦之畑雪けし土蒔

廿八日 雲 八右衛門江金貸 夜中大雪 一昨日谷村新

町出火昼八ッ時

廿九日 大雪二尺斗降

如(二月)月

朔日 天 少々雲天 火防 休日

二日 薄天 地神祭り 休日

三日 雲 雪降 休日 夜あかる

彼岸 四日 天 夕立降り 休日 母病氣

五日 雪 雲 弥市右衛門、仁右衛門仲直り

六日 雲少々 薄天 夕方夜少々雪

七日 雲 天 母病氣

八日 天

九日 天 雲 夕方雪 夜半中

十日 天

十一日 天 少々風

十二日 天 少々風

十三日 雲 五ッ時地震 南陽氣に少々之雨 少々風

夕方より雨 夜半雨 天 北南にて雪日な

た通消る「」

十四日 天 少々風 ○庚申堂より南尺余

十五日 天 少々風

十六日 天 蔵普請

十七日 天 小成沢幸右衛門松木伐 八右衛門「」右衛

門来始

(以下破レ欠)

「」十日(弥生・三月) 天 道作 八ッ雷鳴氷まじり降

十三日 天 夕方雲 穴大根

十四日 雲 天 夜地震

十五日 朝雲 天 風 大嵐源助村徳藏の金受取 大嵐

段野山一件改役場に来る

十六日 天 大村マサくにつうできて来る、直に手紙以知せる

不戻分直に縫右衛門近に来る

十七日 天 休日 寺大般若読料金仁右衛門ト兩人にて

賄

十八日 天 大嵐利左衛門妻おくにを迎に来る

十九日 天 休日 馬ふせ 大嵐天神棟祭りへよばれ行

おくに一件 用助殿へもよる 夕方帰る

権八ケンパチ始ハジメ春や

廿日 天 こいつけ 忙一日 天 役場江行 大嵐大

田ハ段野尾一件同所大嵐江行、内見いたし

うるし植 天 麻蒔 大嵐源五兵衛、縫

右衛門くに女迎に来る ます昨日源助殿も

来る 大嵐栄左衛門より米金受取 日雇源

右衛門
廿三日 天 げすこね 通玄寺の金受取

廿四日 天 しばはき 仲山江八左衛門、辰右衛門、万

吉背負出シに行 夜中風

廿五日 薄天 夕方多雲 しばはき

廿六日 雲 夕方雨 こいつけ

廿七日 少々宛南雨 夜役場へ行咄有

廿八日 天 大木原うない 大嵐栄右衛門の金不残請取

仁右衛門へ金貸

廿九日 薄天 畑うない

外四月月

朔日 少々雨 山見休日 徳藏金貸 夜半雨

二日 雨 大田ハ大工衆は山神宮造 昨日徳右衛門、

半兵衛来我「門弟に候得者、棟祭り、棟

上いたし候

三日 天 夕立雲 畑うない、仁右衛門を頼 むしろ

買 八左衛門金貸日雇渡シ

四日 天 周助養母草め草れい 山見休日

五日 雲 少々天 風 周助殿へ金貸 うない「」

「」 月十日の地震信州肥州大地震之咄
「雲 少々天 雲 うない 段野一件」触来る

(以下破レ欠)

〔十九日〕 天 あらく しろこしらひ

〔二十日〕 雲 ハツノ雨降 粟蒔日雇源右衛門 〔馬又

蔵 夕茶時ノ源右衛門内之あらく〕 〔さしめ〕ない

伝馬と三人にて

廿一日 雨 雲 雨

廿二日 雲 少々天 そばじうない

廿三日 天 夕方雲 豆蒔 日雇源右衛門 夜雨

廿四日 雨 雲 夕方雷鳴 少々雨 そはじうない 夜

雷鳴少々雨

廿五日 天 豆蒔 日雇源右衛門 夕方雲 昨日富士山

江七合目迄雪厚降

廿六日 雲 少々天 雲 免状かく 夜きり

廿七日 雲 きり 昼ノ雨降 そば地うない

廿八日 雨降 木荷作り 大嵐叔母来ル 繁右衛門ノ金

受取 大嵐出入一件 惣代出牢に相成、先

達而まいないの咄いたし遣し候得共、此節

倉見久八、四方津嘉平次、郷宿に居ル先生

三人にて少々遣、ひくれ候間出牢に相成

廿九日 薄雲 少々天 山見休日 出入一件江川茂村周

兵衛、上谷村吉兵衛扱申付る、大田ハ和陸

頼ミに来ル 夜中内談

〔五月〕 阜

朔日 天 大田和ノ和陸寄合 小前帳印形和陸名主給

出金帳三冊、是迄出入済口四本焼払

二日 天 夕立雲 そはじうない

三日 薄天 雲 源右衛門家あらく江行 昨日源右衛

門江墨分貸

四日 天 甲府江出立、甲斐国志と申本御城番御用人

之蔵ニ有之を魚丁之村田屋幸太郎と申本屋

より之人にて借寄拝見いたし候処、丸之こ

まかあり是を見に行、柳丁二丁目万屋要二

郎に泊り

六日 雲 昼過ノ夜中雨 右之本甲府にて見る、脇江

出事ならず逗留、同屋に泊り、三味線持参

六日 雲 四ッ過ノ雨降 甲府出立 〔野木山本

屋に泊り

〔七〕日 雨 雲少々雨 家に帰り、山見休日

〔八カ〕日 雲 少々薄天 右之咄しに谷村江行 〔一カ〕屋

泊り 先日府中小遣賄置

〔九日カ〕 雲 八ッ過がきり雨、谷村が帰る

〔十日カ〕 雲 雨 天 免状かく

(以下破レ欠)

〔廿六日カ〕 「 夕立雲 天 雷鳴雨 こふさく

〔廿七日カ〕 雲 少々天 夕立雨 こふさく 「へまいか

き 昨日が悴寺へ手習に行

〔廿九日カ〕 雲 まいかき 昨宵地震 夜天

〔三十日カ〕 天 まいかき こくそばき

水無月(六月)カ

〔朔カ〕 日 雲 天 雲 山見休日 夜地震

〔二カ〕 日 雲 薄天 雲 雨 こふさく まいをうる 夜

役場江行、段野一件内談、組・親をよせる

三日 雲 はら雨 山見休日 朔日に釜之口籠屋焼る

四日 天 夕立にて境野追ばら雨 こふさく

五日 雲 薄天 こふさく 若者江耕作金渡ス

六日 天 大雷鳴雨 麦か里 富士山江八合下込雪ふ

る 夕茶時が源右衛門こいつけ

七日 きり雨 雲 少々天 雲 少々きり雨 麦刈

北川村広藏殿が針葉借置

八日 雲 少々薄天 雲 夕方き里雨 こふさく 日

雇源右衛門

九日 雨 雲 麦こぎ

土用 十日 雲 雨 九ツが 山見休日 夜雷鳴雨

十一日 雨降 夜雨 若洗(若次カ)こり念仏

十二日 雨 昨日が三日、正月今日山見休日 九ヶ村一

統日中念仏 周助殿が金受取

十三日 雨 雲 少々天 雨 かり草 此節の道たんぼ

の如し 夜少々風

十四日 雨 雲 少々天 夕方 少々薄雲 風 夜天

十五日 天 夕立 雲 一ツ雷鳴 少々雨 朝大根作り

ハ休日 幸右衛門江金貸 源兵衛無尽行不

掛

十六日 朝雷鳴雨 雲 天 雷鳴大雨 雲 小麦か里

夜仁右衛門来 役人来ル 私こごと

十七日 天 雲 雷鳴雨降 小麦かり 昨日富士山江八

合目迄雪降、今日も八合五勺迄雪降 夜天

寒し 役場江行金集頼み候得共不出

十八日 天 東ニ而雷鳴 小麦かり 組親寄合 伝馬国

右衛門、利右衛門

十九日 天 夕立 雲 かり葉 伝馬勘右衛、宮内右衛

門

廿日 天 夕立雲 蕎麦蒔 日雇源右衛門 伝馬万吉

十八日に役場へ行 村寄合 多右衛門、

伝次右衛門谷村の之」にて来る

(以下破レ欠)

十六日^(文月・七月) 天 夕立雲あり ばら雨

十七日 天 徳藏金貸 未の吉一件寺わび れる 大

嵐無尽へ行掛ル 寺の無尽金受取銭にて

夜帰る 甚之丞、市右衛門の金受取 昨日

より三日風祭り 寺に酒呑 休日 源右衛

門金貸 夜栄三郎組み親類一同上て願故役

場江わび、右斧一件

十八日 天 九ッ迫右一件に掛 雨 草かり行 夜右一

件にて甚之丞組合頼故役場江訖

十九日 天 草かり 夕方雲夜雲

廿日 天 夕立雲あり ばら雨 草かり

廿一日 天 夕立雲ありばら雨 夜少々雨

廿二日 雲 少々天 雨 つぶごい入 夜雨 源右衛門

の金受取

廿三日 大雨少々風 雷鳴 少々天 大雨 夜雨

二百十日 廿四日 雨 天 少々風 休日

廿五日 天 夕立雲 ばら雨 草かり 出金為ス

廿六日 天 雲 夕立大雨 草かり

廿七日 大雨 少々風 夜大風雨

廿八日 雨風 昼の天 山見休日

廿九日 天 草かり 伝兵衛金貸

葉^(九月)月

朔日 天 遠方にて雷鳴之音 馬ふせ りふそふ祭り

いたし徳藏の金受取

二日 雲 天 雲天 日雇源右衛門 役場へ出金割ニ

行

三日 天 雲 天 出金割ニ行 伝馬次右衛門 日雇

源左衛門 草まるけ 伝兵衛の金受取

四日 天 草まるけ 日雇源右衛門、甚兵衛の九重郎

朔日に急病

(以下破レ欠)

〔廿三日〕きり 少々天 夕立大雷鳴雨 灰草〔か里み〕 多

左衛門病死 富士山江木境迄雪降〔 〕

廿三日 天 夕立雲少々 日中題目

廿四日 天 雲 天 雲 灰草か里

廿五日 雲少々天 草まるけ

廿六日 雨降

廿七日 雨 休日 はらひ日〔ひ〕日待

廿八日 雲少々 薄天 灰草か里

廿九日 雲 夕方上之山はら雨 灰草か里 平右衛門江

金貸

晦日 雲 薄雲 天 山見休日 はらひ 夜富士山江

ちら雪 雨 天

長月〔九月〕

(以下破レ欠)

〔神無月・十月〕 六日 朝雲直ニ晴れ〔 〕 衛門金貸 大石老軒焼ル

七日 朝雲直ニ晴 馬フセ同日待周助タクエ行 大子

講日待半左衛門家エ行

八日 晴 昼ヨリ風吹 大根トリ 夜風吹

九日 晴 題目堂山取 夜地震

十日 晴 宮普請

十一日 晴 八ッ時風雪 題目堂山取 夕方風 山見休

日 夜大風

十二日 晴 風夕立止 題目堂山取 夜地震

十三日 晴 題目堂材木ヨセ

十四日 晴 シバハキ 少々風

十五日 晴 ダラカケ 伝兵衛ユイニ来ル

十六日 雲 晴 雲 兎狩

十七日 晴 題目堂細工 重左衛門ユイニ来ル木ツケ

十八日 朝雲 晴 堂細工重左衛門ユイニ来ル木ツケ

十九日 雲 少々晴 雲 少々晴 夜晴 堂細工

二十日 晴 雲 バラ雨 雲 夜雷鳴雨 野迄雪 大神

宮御師来ル 甲子講中ノボリ字カク 堂

細工

二十一日 雲 晴 雲 風 雷 少々晴 堂細工重右衛

廿二日	晴	門ユイ来ル 木ツケ 夜風吹	五日	晴	伝兵衛ユエイニ行屋ヲコシ 日雇源左エ門 コイダシ
廿三日	雲	堂細工 民右衛山 <small>(門)欠カ</small> 一件ニテ役場エ詫ニ頼レ 行 源次衛 <small>(門)欠カ</small> 仁右衛 <small>(門)欠カ</small> 一流 <small>(統)カ</small> ニテ	六日	晴	堂屋根リ <small>(マ)</small> 日雇源左衛門 夜雨 <small>(ケ)</small> トル 三左衛門ヨリ <small>(ケ)</small> トル
廿四日	雨	少々晴 堂細工 夜風	七日	晴	「」
廿五日	晴	富士風雲 堂細工 地形川内北川薬師屋エ 錢弘 夜風	(以下破レ欠)		
廿六日	晴	大風家ヲ破ル 堂細工 夜風	二十日	晴	「」
廿七日	晴	少々風 堂細工 平左衛門ヲ金請取	二十一日	晴	内細工
廿八日	晴	堂細工建工終	二十二日	晴	内細工
廿九日	少々晴	雲 風 雪 大風 房蔵悴改メヨバレ ル 堂柱立 朝雷鳴 夜大風 家破ル	二十三日	晴	内細工
霜 <small>(一)月</small>			二十四日	晴	雲 富士エ雲 <small>(ケ)</small> トル 「」コモアミ
朔日	晴	昼迄大風土砂ヲトバス風 堂立ル	二十五日	雲	少々晴 雲 コモアミ
二日	晴	少々風 堂屋根 <small>(ケ)欠カ</small> 昼 <small>(カ)</small> 大風エ行 夕方カ	二十六日	晴	夕方少々薄雲 夜雪 和兵衛一件取持人 ヲ集家作相談取極メ 日雇源左衛門
三日	晴	甚之丞悴文右エヨバレ 日雇源右エ門	二十七日	晴	貯穀見分来ル 遠見ニナル 夜中ヨリ雲
四日	晴	シバハキ 山道伝兵衛ヨリ金受取 日雇源 左衛門	二十八日	晴	嘉左衛門母ソウレイ見舞 雲 フ ハラ 雪マウ、スグニ晴 夜明少々風 雲如左、 雲アリ東北ニハ少々晴星見エル 日雇源左 衛門



二十九日 朝ヨリ晴 少々風 ゴサ拵 夜晴 日雇源左

衛門 夜明星見エ、二十七日夜合夜トヲモ

エル、小人星ヲ近クトラルトカンガエル

晦日 晴 ゴサ拵

(節定十二月)
極月

朔日 晴 ゴサ拵

二日 少々晴 雲 風 雪 雲 ゴザ拵

小寒 三日 晴 経木始 八左衛門、谷右衛門来ル

四日 晴 薄雲 経木ツキ

五日 晴 経木ツキ

六日 晴 経木ツキ 水番調廻ル

七日 晴 経木ツキ 弥次右衛門来ル 夜少々風

八日 晴 経木ツキ 夜少々風 昼地震

九日 晴 経木ツキ

十日 晴 朝少々雲風 経木ツキ夜雲

十一日 朝雲直ニ晴 経木ツキ

十二日 雲 四ツヨリ雲フル 平作死リヲレイニ行 同

ツク

十三日 晴 免ヲイニ行 夜雲 同ツク

十四日 雲 少々晴 雲 富士エ雪 経木ツキ

十五日 晴 経木ツキ 夜少々風

十六日 晴 経木ツキ

十七日 晴 経木ツキ 夜少々風

十八日 晴 経木ツキ

十九日 晴 大嵐縫左衛門(門)欠カ 金請取 役場ニテ出金割エ

立合 少々薄雲

二十日 雲 少々薄晴 経木ツキ 日雇源左衛門コイダ

シ 夜中雪 夜明ヨリ雨

二十一日 雨 雲 晴 経木ツキ

二十二日 晴 夕方ヨリ雲 経木ツキシマイ 弥次右衛

門、谷右衛門エ日雇払 弥次右衛門ヨリ利

金請取

二十三日 雲 少々晴 経木ハヅシ

二十四日 雲 昼ヨリ ハラ雪ス」 「去年分請取

二十五日 晴 薄雲 夕方富士風雪 源左エ門、伝次右

エ門ヨリ金請取 夜ハラ雪

二十六日 薄雲 経木荷作

二十七日 晴 薄ハレ ショウウジハリ 繁右衛門ヨリ銭

請取 佐右衛門ヨリ金請取 市左衛門ヨリ小

作請取 水トマル

二十八日 晴 薄雲 夕方富士エ雪 クレヨリ雲 経木

勘定 夜晴 クルイニハ雲

二十九日 雲 薄晴 雲 風花雪 富士エハ少々宛雪

糯ツキ 十五日 水戸様御隠居総頭トシテ公家

様三人ヲ引込、大内エシノビ入大神宮ノ御鏡

ヲヌスミトリ、大坂之城エ籠リ江戸ヲセメル

タクミイタシ、コノコトアラハレテ八月時分

召トリニアイナリ、京都ヨリ江戸エ、先日ホ

ンノリ花カゴ五ツ東海道ヲ御大名ヨリ御大名

付ニテ下ル 御大老イム加門様ノ御センギナ

リ、前代ミモンノコトナリ、公家様御トマリ

シクヲバ夜トヲルナリ、コノ時江戸將軍様エ

シヨウグンシヨクユルシニクダル 此カゴ

シユナリナカヲ青ヒモニテシバル

大晦日 雲 薄雲 寒シ 冬中富士山ニ六合メヨリ

上ニ風吹払ヒ、雪沢ニ斗アリテツコウニハナ

シ 夜晴ニ三日大ニ寒シ

安政（ハナシ）六年 正月

元日 晴ヲダヤカニシテ風モナシ 夜ヨリ雲 大嵐エ

礼ニ行

二日 雲 雪一ニ寸フル 初ヨリアイ 名主極ル 夜

三日 晴 月ハタイロヨリ少々カシグ 南ニ少々雲

四日 薄雲 富士エ少々雪吹 寺ヨリ年礼請

五日 晴 薄雲 組頭・百姓代入札

六日 晴 富士ニハ少々雲

七日 晴 少々風 源左衛門ニ金貸

八日 晴 薄雲風 夕方雪 先日ヨリ出口ニハ水アリ

道シ 今日ヨリ水番調廻ル 夜雨 夜明晴

九日 晴 山見休日

二十日 雲 薄雲 夕方ヨリ雲 經木ツキ 夜雪降

十日 花雪 雲 夕方晴 夜「 〔後相統〕 〔咄〕 〔

二十一日 雪 昼ヨリ雲 薄雲 夕方雪 山見休日 祭

十一日 晴 リウソウ祭ニ清「 〔へ行 仁右衛門トト

ガイ 大嵐源助殿来リ泊ル 大工講良蔵殿

ク左衛門分ノ金受取

宅エ行

十二日 晴 少々風 夜寒シ 祖師堂天上ハリ

二十二日 雲 薄晴 雲 經木ツキ弥次右衛門来始、夜

十三日 晴 薄雲 日中仁右衛門^{ヨリ}徳左衛門分金請取

平作後相統咄 久兵衛殿宅エ行

夕方ヨリ雲ニ夜雲 大嵐ヲクニ来ル

二十三日 晴 經木ツキ 夜風

十四日 雲 風 雪 六^シヨリ夜晴 シヅカナリ 月ヲ高

二十四日 雲 少々雨降 經木ツキ 夜雨降 晴 平

クナシ下クナシ 沢中入星ワチイサクシテ

作跡相統咄 夜少々風

スクナシ、月入テ東シラム 朝ヲクニカエ

二十五日 晴 夕方雲 休日 出金出ス 八左衛門金貸

ル

夜雲

十五日 雲 富士山エ少々ツム雪 夕方少々花雪

二十六日 雪降 經木ツキ 夜迄雪夜中ヨリ晴

十六日 晴 大嵐無尽金寺ヨリ受取

二十七日 晴 經木ツキ クレ六ツヨリ夜雲

十七日 晴 大嵐エ行無尽金カケル 夜カヘル

二十八日 晴 地震 經木ツキ 夜雲

十八日 晴 ウサギフチニ行 カエリ八右エ門ト二人ニ

二十九日 雲 經木ツキ 法印サマ祈禱 水番調廻ル出

テ經木ツキ始 夜雲 二三日大キニ寒シ

口ニテ汲

水キレイニトマル

晦日 雲 經木ツキ クレ六ッ時少々雪 夜雲

十九日 朝東富士之西迄雲 外ワ晴 寒シ 經木ツキ谷

二月

右エ門来始 夜明ニ近ク地震

朔日 雲 大嵐叔母来ル 昼少々晴 雲 夜雲 ヨイ

二地震

- 二日 雲 少々晴 雲 経木ツキ 夜晴雲
 三日 雲 雪 経木ツキ 夜雪 雲 水出ス
 四日 雲 キリ降 経木ツキ夜雲
 五日 雲 経木ツキ流シ 休日
 六日 雪降 経木ツキ 夜雪
 七日 雪 雲 雪 経木ツキ 夜雨
 八日 朝雲 晴 日中富士エ雲 此節富士山皆白クナ
 ル 三左衛門悴名改ヨバレ
 九日 晴 経木ツキ 昨日弥次右衛門江金貸 夕方薄雲
 十日 雲 雪 経木ツキ 夜雪 雲
 十一日 雲 晴 雷雲 経木ツキ
 十二日 雲 経木ツキ 夜雪降
 十三日 雪降 経木ツキ 夜雲
 ヒガン 十四日 雲 晴 雲 経木ツキ終 谷右衛門、
 弥次右エ門日雇払 弥次右エ門が金請取
 十五日 晴 荷作 夜「」
 十六日 晴 枝揃中結「」
 十七日 晴 夕立雲 ハラ雪「」 (鳴沢・渡辺泰一家蔵)

3 「伊勢参宮道中日記」 弘化五年(一八四八)二点

〔解説〕 鳴沢村には、伊勢神宮への信仰を中心に結ばれた伊勢講(神明講ともいう)があった。この講は室町末期から、特に江戸期には盛んで伊勢参りが行われた。講中では年々くじ引きなどで代参者をきめた。代参者は「やど」に集まった講員と天照大神の掛軸を拝し、酒宴の歓迎をうけ、参宮して大麻をみやげとして帰村した。無事に帰村すると講中は代参者を歓迎した。(2)の文久二年の村の代参者は、渡辺長左衛門と同権兵衛であり、日記には道中の宿泊地の地名、渡舟賃、諸経費などが細かく記録されている。

(1) 「伊勢・京・大坂伏見之帳 弘化五歳申 正月二

日

覚

申正月二日 大田和が大宮迄千り

一百五拾文 大宮宿 松屋亀吉泊り

同三日

一金式朱ト百五拾文 ちがくし

一四拾文 きせる

一 貳拾四文

富士川ちん

一 拾八文

ゆい宿にてにしめ

一 百七拾貳文

久野山 名主八右衛門泊り

ノ而金貳朱ト七百四拾六文也

同四日 大宮ノ久野迄十り

一 三拾貳文

久野山（番カ）安内ちん

一 拾貳文

わらぢ

一 六百五拾文

府中にてかつば（ぼカ）

一 四拾五文

あへ川ちん

一 拾貳文

にしめ

一 貳拾八文

たばこ

一 二拾四文

わらぢ二そく

一 二拾八文

紙

一 拾八文

とこや

一 百七拾貳文

酒代 志まだ宿深見や新八泊り

ノ而卷メ四拾卷文也

久野ノ志また迄十一り半

同五日

一 百七拾六文

（おおカ）おい川ちん

一 廿八文

にっ坂 あめのもち

一 拾文

森にて さつま

一 八文

たばこ

一 四拾八文

川ちん 番人道作代

一 百七拾貳文

坂本にてわんやモリ左衛門泊り

志まだノ坂本迄十四り

ノ 四百五拾文也

同六日

一 四拾貳文

秋葉札代

一 拾貳文

みかん

一 拾貳文

川ちん

一 拾六文

石打にてべんとふ

一 百廿四文

大の宿にてこふかけ

一 百七拾貳文

大の宿染屋源兵衛泊り

一 拾貳文

たばこ

一 拾六文

酒代

坂本の大の辻十一

ノ四百拾四文也

同七日 鳳来寺

一拾貳文

札代

同

一拾六文

ゑず

一五文

舟ちん

一三拾六文

にしめ

此間にてほんのふばらとゆふ大原有

一拾六文

御油にてわらぢ

一六拾四文

赤坂宿三国屋助七泊り

一拾六文

酒代

大の赤坂辻十一り半

ノ貳百六拾九文也

同八日

一貳拾四文

そば

一五拾六文

当ゆうべんとふ

一拾貳文

わらぢ

一三拾貳文

なるみ 酒代

一四拾四文

宮宿にて大黒や喜兵衛泊り

赤坂の宮辻九り半 此日大風有

ノ而貳百七拾貳文也

同九日

一拾五文

わらぢ

一貳拾五文

名古屋にて 酒代

一五文

津嶋天王 かけ物

一拾拾壹文

舟ちん玉共

一三拾三文

小夫

一五拾五文

桑名宿ほん志んわきするがや泊り(じ)カ

宮の桑名辻九里半

ノ而四百三拾六文也

同十日 追分にて

一六拾五文

べんとふ

一拾五文

津宿にて酒代

一拾貳文

わらぢ

一七拾貳文

くも津米屋泊り

桑名くも津辻十六里

ノ而貳百六拾八文也

同十一日

一拾貳文

さつま

一廿四文

紙

ひさいにて城有

一貳拾四文

いなぎじくにてにしめ

一拾貳文

川ちん

一拾貳文

白酒代

一七拾貳文

きせる

一ノ三拾貳文

川ちん

一百六拾四文

ひさい宿長大夫泊り

伊勢大神宮へ付

一貳百文

さんせに

ノ而金貳朱ト錢五百廿七文也

伊勢ノひさい辻八里半

一六六拾四文

かけ物

同十三日

一八拾文

こり

一拾貳文

わらぢ

一百六拾四文

札代

一貳拾九文

あわ村にてにしめ

一金貳朱ト百文

房入

一拾九文

上の宿にて酒代

くもず伊せ辻九り

此所城有三十五万石 とおく清水守

一ノ而金貳朱ト錢壹貳百五十六文也

一拾五文

志まが原川ちん

同十二日

一百四拾五文

志まが原宿竹本屋泊り

一ノ三拾貳文

川舟ちん

ひさい志まが原辻十三里

一金貳朱

いなぎつぼや

ノ貳百廿四文也

一百拾六文

同かさ

正月十四日

一三拾壹文

同ねつけひぼ

一拾三文

わらぢ

一六拾四文

松坂にてひるだき

一六拾四文

かも宿にてひるだき

一拾貳文

川ちん

一拾六文

舟玉ちん

一七文

さつま

一百文

伏見にて早めし時付

一五拾文

なら大ぶつさん銭有

京都へ五つ時付

一百六拾四文

あまが辻こぶや吉兵衛泊り

一廿四文

とこや

志まが原あまが辻迄春日廻り十り

一六拾四文

吉田坂虎屋にて

此の日あめあらし大風有(むか)

一三百七拾貳文

針り

ノ而三百拾六文也

一六百五拾文

てぶるしき

正月十五日

一拾貳文

白さとふ

一拾六文

わらぢ

外に

さん銭有

一三拾六文

酒代

一

そろばん

一六拾四文

大坂にてひるだき

一五五拾文

はり

一拾貳文

紙代

一金壹分

はり

一三拾四文

大坂 志ばい にんぎふう(や)カ

一貳百文

京都小松屋長兵衛泊り

一百文

大坂日本ばし舟 ようはん

大坂を京都迄十三り

一百八拾四文

伏見辻川ちん

一ノ而金貳分也

一拾六文

たばこ

正月十七日 京都

尼辻を大坂迄七り

一三百五拾文

男女こ志おび

ノ而四百六拾六文也

一百三拾貳文

こり

正月十六日

一拾六文

わらぢ

一三拾六文

大津五十丁舟ちん

一拾四文

わらぢ

一貳拾貳文

くさつにて酒代

一貳拾文

にしめ

一六拾八文

ひるだき

一八文

川舟ちん

一貳拾四文

川舟ちん

一貳拾四文

川舟ちん

一拾貳文

たばこ

一八文

酒代

一六拾四文

むぎ宿にて染屋新兵衛泊り

一八文

たばこ

京都のむぎ造十一

メ而八百三拾四文也

一六拾四文

うぬま宿みぶがや銀右衛門泊り

一貳文

川はしちん

メ而四百拾九文也

今すかうぬま造十五

一拾六文

わらぢ

同廿日

わらぢ

一八文

にしめ

一拾貳文

わらぢ

一メ而拾貳文

川はしちん

一四拾八文

大田川舟ちん

一拾貳文

わらぢ

一拾貳文

にしめ

一六拾四文

今須宿せにや儀左衛門泊り

一拾老文

大井宿名物もち

此日は

わらぢ

一拾四文

わらぢ

あめふり むぎの今す造十一

一六拾四文

大井宿浜田屋惣兵衛泊り

メ而貳百廿四文也

うぬま大井造十三

同十九日

メ而貳百六拾五文也

同廿一日

一拾三文

わらぢ

一三拾貳文

つまこにてにしめ

一拾貳文

酒代

一六拾四文

須原宿つるや与吉泊り

大井がすはら迄十二り十一丁

ノ而貳百廿五文也

同廿二日

一五拾文

須原宿名物つけ物

一拾六文

須原あみどふ奉加(だ)火カ

一貳拾八文

にしめ

一六拾六文

もち 酒代

一六拾四文

本山玉木屋源兵衛泊り

すはらが本山迄十四り此外ニ三十九丁繩余

ノ而三百貳拾八文

同廿三日

同廿四日

一三六拾四文

本山宿玉木屋源兵衛泊り

一貳百文

小夫

ノ而五百六拾四文也

二日(分)カ文

同廿五日

一拾四文

わらぢ

一八文

にしめ

一貳拾九文

酒代

一四拾八文

あいだ志く宵泊り

本山があい太迄十り

ノ而貳百三文也

同廿六日

一三拾貳文

にしめ

一廿三文

酒代

一三拾六文

たんば川舟ちん

一三文

もち

一六拾四文

善光寺やまや喜兵衛泊り

あい田が善光寺迄十一り

ノ而貳百六拾貳文也

廿七日

一三拾六文

川舟ちん

一貳拾貳文

川舟ちん

一拾六文

にしめ

一廿八文

酒代

二月一日

(以下欠)

一百四拾八文

上田志くゑちごや

(鳴沢・渡辺常雄家蔵)

善光寺々上田迄十り十五丁

メ而式百五拾四文也

(2) (表紙) 一文久二年

(裏表紙) 一 甲斐国成沢村

廿八日

一拾五文

わらぢ

伊勢道中日記覚帳

道中安全

一拾式文

長久保にてにしめ

成正月大吉日

渡辺長左衛門控

一百文

くまのい

正月

四日

一四拾八文

わだ峠にてめし

一百八十四文

人穴村宿

一百五拾文

すハにてこまつや泊り

五日

メ而三百廿七文也

上田々すハ迄十二り

一四十八文

つりぼし、ひるたき

同廿九日

にしめ

一三百文

油井、とまり

一四拾八文

酒代

一百四十八文

くのふ、ひるたき、小夫(魚)

一式拾四文

たばこ

一三百四十文

府中山とや、半兵衛宿

一拾式文

大ヶ原宿つたや泊り

一五十六文

あべ川こし

メ而式百三拾六文也

すハ大ヶ原迄十り

一五十六文

ふじゑだ、昼たき

メ而式百三拾六文也

一百五十六文

をふい川こし

一十五文	につ坂、あめ、もち	一七十二文	志んしろ、昼だき
一三百文	につ坂宿	一十六文	たばこ
八日		一十六文	はな紙
一四十八文	もりにて昼だき	一拾二文	滝田川ごし
一四五文	四十八ッせ惣ごし	一十二文	豊川、小夫
一四〇文	もりにてふんごミ代	一三百文	御油とまり
一拾八文	わらじ代	十一日	
一二〇文	あきは山、ほふい連	一七十二文	おかさき、昼だき
一五五拾文	大札	一十二文	わらじ
一四拾文	小札	一二百七十二文	なるみ、しまたや源四郎と まり
九日			
一廿八文	天竜川ごし	是迄メて三メ九百四十文	
一〇八文	石打にて昼だき	十二日	
一拾貳文	ミかん四つ	一二百文	宮川渡し
一拾貳文	わらじ代	一廿四文	酒さかなとも、くわな
一二百七十二文	大のにて宿	一二百十二文	富田にて、うをや藤太郎と まり
拾日			
一十六文	ほふらいし、道つくり	十三日	
一七拾貳文	札、あん内	一六十四文	うへのにて、昼だき

一拾三文

わらじ代

宿

一二百八十文

くもぞとまり

拾七日

十四日

一四拾八文

こんこふ坂にて昼たき

一廿二文

昼だき

一三百廿四文

たばこ入

一廿二文

ひらのふにて京右衛門とまり

一八十拾八文
(カ)

宮川^カ是迄惣はし代

一十八日

一金老朱

大神宮ほふ入代

一四拾八文

なら、御むそふ着^カ

十五日

一十六文

おほらい代

一十六文

たばこ

一貳十二文

はらい代

一八十四文

一五十七文

内宮札代

一四拾八文

かふり山、昼めし
やなぎ元、つくしや徳次良

一貳拾四文

満んじふ

一十九日

宿

一四拾八文

くしだ川昼たき

一三十二文

とふのミネにて、昼めし

一三百文

かっぱ代

一三百文

吉の、ふくちや門は家へとまり

一二百八十文

松坂、ふたみや嘉兵衛宿

十六日

廿日

一七文

大和ゑず代

一四拾八

(文)欠カ

御城にて昼めし

一四拾八文

かきの内昼だき

一拾六文

谷のはし渡し

一三百文

あをにてかんべや源右衛門

一拾四文

わらし

一二百五十文

かむらにて、米や才右衛門

一貳百文

松や与兵衛宿

とまり

一二百廿四文

上立いきど

廿一日

廿四日

一拾五文

紙代

一百文

大坂船渡し、あさめし

一拾五文

かみやにて昼めし

一百七十二文

小夫、昼めし

一七拾二文

かうや山にてを山姿

一三百八十文

京大はし東入三条にて、月

是迄メテ

みのや徳左衛門宿

一四メ百八十文ニ成

廿五日

一二百八十四文

かみや村したてや藤吉宿

一二百七拾二文

をびしめ

廿二日

一金二朱ト錢二百廿四文

ふる敷代

一四拾八文

はし元にて昼たき代

一六拾四文

掛軸三つ

一拾二文

はし元渡し

一三百文

をふつにて、角や嘉助宿

一十文

わらし

廿六日

わらし

一八文

たばこ

一十三文

たばこ

一三百五十文

さかいにて、をふぎや嘉兵衛宿

一八文

たばこ

衛宿

是迄メテ

廿三日

一四メ三百十二文也

一六拾四文

小夫代

一二百廿四文

糸じ川、花や又七宿

一二百文

大坂にて半宿

廿七日

一八文

六川渡

一卅四文

十三峠、酒手

一廿四文

大つゝ是迄はし代

一百五十文

たかつ川にて、かさ代

一八文

たばこ

一四拾八文

大い、昼たき

一拾六文

ばんバ、昼めし

一貳百五十文

をち合にて、糸や又右衛門

一拾貳文

こふど川

一日

とまり

一貳百五十文

たるい土や、直吉宿

一廿四文

つまごにて、くりのこわめ

廿八日

一四文

はし

一廿四文

し

一卅六文

大田川わたし

一卅貳文

同、そば代

一四拾八文

をふ田にて、昼めし

一拾二文

たばこ

一廿二文

わらし二そく

一二百八十文

すあらにて、田島や金次郎

一百六十四文

をふミニて、ちゃわん代

二日

宿

一二百五十文

うるまにて、なにわや忠右

一拾六文

ふく嶋にて、昼たき代

衛門宿

廿九日

一四拾文

小夫

一拾六文

をふ田にて昼めし

一十六文

紙代

一貳百四拾八文

「」宿や又右衛門とま

一一百五十文

くし十枚

り

一一百四十八文

ならいにて、くし十二枚

卅日

一一百文

同、十五枚

一二百文	同、十五枚	一八文	たばこ
一八文	雲道代	一二百七十二文	大原にて、たけや仁右衛門
一二百五十文	八五原にて、田中や孫右衛門	五日	宿
三日	門宿	一拾六文	にら崎にて、にしめ
一百五十文	ちう箱二つ	一三拾二文	同角や、酒肴共
一百文	弁とふめんぱ	一金老分二朱	甲府てはをり代
一百五十 <small>(文) 欠カ</small>	すぐりぶた二ツ	是迄	
一四拾八文	まげ物二ツ	惣て而	
一八文	たばこ	一金三兩	
一五文	くりのこもち	一卅二文	甲府にてさかやけ代
一八文	道つくり代	五日・六日	
一三拾二文	しお志り ^ナ にて、酒手さかな	一二百五十文	からかしわとまり
	共	一卅二文	とふぬき、にしめ代
一十二文	元山にて、昼薪	一五十六文	川口村、酒手
一二百七十二文	上すわにて、大林や銀蔵宿	七日	
一廿四文	つたき、昼めし	一三百六十文	舟ッ宿、酒手
一式十四文	わらじ	一四百五十文	舟つにて、手ぬぐい、半き
一拾六文	紙代		連

一百文

同、つけぎ

一百文

くわし代

一九百文

まき銭

一金壹分毫朱

衛・角右衛門・耆人ハ駿州富士郡上井出村源藏召仕候
留吉ノ四人切殺被致候躰ニ相見、尋人早速勝山村・小
立村兩村江相談、右兩村ハ御檢使御見分奉願上候通、
私共一同以書付御届ケ奉申上候 以上

一百七十二文

当郡

一金毫朱

そふめん

文久元

成沢村

一金三分ト銭六十四枚

酉三月七日

名主

(大和田・渡辺頼一家蔵)

伝次右衛門

4 「富士仙元の殺傷事件」 文久元年（一八六一）二点

〔解説〕 文久元年（一八六一）、鳴沢村地内の通称富士仙元付

近で、呉服行商人（勝山村ほか）四人が殺傷される事件が起き

た。この史料は、その検使見分の結果を谷村代官所に届け出た

ものである。

(一) 乍恐以書付御届奉申上候

浅川村

一当御領所成沢村外三ヶ村一同奉申上候、私共六ヶ村一

名主

同入会山内、字中大坂ト申場所ニ変死人有之由、駿州

善左衛門

富士郡上井出村ハ為知有之候ニ付、早速場所へ罷越見

谷村

請候所、耆人ハ小立村六右衛門、忒人ハ勝山村完兵

御役所

(2) 差出申一札之事

(鳴沢・渡辺常雄家蔵)

付金が当てられた。一人錢二百文が最高で、大豆五合中(なか)ら、一盃(六合)などが集められた。

一 今般其御村方持分於内山、私シ共村方之者變死いたし、然処、市川御役所様御検使ニ相成候てハ、彼是手

〔表紙〕
「文久二年 伊勢大神宮勸化覚帳 戌六月大吉日」

重之儀ニ付、私シ共内山之由申達御検使を請申度候段、

一百文 源次右衛門 一百四十八文 五郎右衛門
 一百文 政 蔵 一百七十二文 伝左衛門
 一百文 善兵衛 一百四拾八文 伝兵衛

御願申入候処、御聞濟ニ相成忝存候、依之一札差入申所、相違無之、依如件

一百文内半取 弥市右衛門 一七拾二文 織辺之助
 一四十八文 茂三郎 一 おまん

万延二年

一百文 嘉右衛門 一百文 兵右衛門

酉三月五日

一百文 久左衛門 一百文 七郎左衛門

勝山村

一百文 甚右衛門 一百四十八文 安左衛門

役人

一百文 儀右衛門 一百四十八文 長十郎

小立村

一百文 おかめ 一百文 儀助

本栖村

役人

一百六十文 元兵衛 一百文 孫右衛門

御役人衆中

(勝山村小佐野偉夫家蔵)

一百廿四文 源右衛門 一百廿四文 源蔵

一百廿四文 与兵衛 一百四拾八文 文右衛門

一百廿四文 直兵衛 一貳百文 伝右衛門

一百五十 周右衛門 一六十四文 七郎左衛門

一百三十二文 与五左衛門 一二百文 万吉

5 〔伊勢大神宮代参資金勸化帳〕 文久二年(一八六二)

〔解説〕 前出史料に関連するもので、代参の費用は村民の寄

一百七十二文	丑 <small>かし</small> 松	一百二十文	重左衛門	一	源次右衛門	一三盃	か <small>し</small> 五郎右衛門
一百四十八文	弥兵衛	一四十八文	およし	一五合中ら	政藏	一三盃	善兵衛
一貳百文	善次右衛門	一百五十	弥右衛門	一三盃半	伝左衛門	一貳盃	伝兵衛
一貳百文	半藏	一	市之丞	一老盃半	弥市右衛門	一三盃	茂三良
一	おひやく	一	伝五右衛門	一老盃	おしやふ	一老盃	か <small>し</small> 重右衛門
一	権兵衛	一七拾二文	平左衛門	一貳盃半	おまん	一百四拾八文	久左衛門
一貳盃	清兵衛	一貳百	徳兵衛	一	兵右衛門	一中ら	甚左衛門
一百廿四文	国右衛門	一百五十	久右衛門	一老盃	七郎左衛門	一老升	儀右衛門
一百文	政兵衛	一百文	吉右衛門	一三盃	安左衛門	一貳盃	をかめ
一百四十八文	儀兵衛	一百文	平三郎	一貳盃半	長十郎	一五合	元兵衛
一百三十二文	岩吉	一百文	常吉	一三盃	儀介	一貳盃半	源右衛門
一百七十二文	谷藏	一百四十八文	平右衛門	一百四拾八文	孫右衛門	一三盃	与兵衛
一百廿四文	重左衛門	一百拾貳文	小十郎	一三盃	源藏	一貳盃半	文右衛門
一百七拾貳文	幸吉	一百四拾八文	与五右衛門	一老升	伝右衛門	一三盃	七郎左衛門
一貳百文	徳左衛門	一同	栄左衛門	一貳盃半	周右衛門	一老盃	万吉
一百廿四文	幸左衛門	一	元右衛門	一貳盃	与五左衛門	一老升	重左衛門
一百文	伝次右衛門	一百五十	儀兵衛	一貳盃半	丑松	一老升	善次右衛門
一百文	江右衛門			一三盃	弥兵衛	一老盃	徳右衛門
					弥右衛門	一老升	

是大豆分

一 式盃	市之丞	一	ひやく	此内
一 式盃	権兵衛	一 壹盃半	平左衛門	一 式百文 酒手引
一 壹升	徳兵衛	一 三盃	国右衛門	秋分
一 三盃半	久右衛門	一 式盃	政兵衛	一金 壹両 貳朱 錢百文
一 式盃	吉右衛門	一 三盃	浅兵衛	此内 酒手代
一 壹盃	常吉	一 小中ら	平三良	一 三百三十二文
一 式盃	岩吉	一 三盃	谷藏	一 俵二つ 四十文引
一 三盃	平右衛門	一	重左衛門	夏秋
一 百文	小十郎	一 三盃	幸吉	惣メ而有錢
一 式盃半	与五右衛門	一 三盃半	徳右衛門	一金 貳両 貳朱 錢 壹メ 廿四文
一 壹升	栄右衛門	一 三盃	幸右衛門	此内 紙半束
一 式盃	元右衛門	一 壹升	伝次右衛門	一 六拾四文引ル
一 三盃半	儀兵衛	一 壹盃	江右衛門	一 右金 貳ツ割ケ
惣メ而有				(以下略)
一 三斗 四升 壹盃 中ら				(裏表紙)
一 勘定酒 壹升				「村代参 当所 渡辺 長左衛門 渡辺 権兵衛」
三百三拾 貳文夫				(大田和・渡辺常雄家蔵)
夏分				
一金 壹両 貳錢 壹メ 五百文				

6 「伝来の諸什物覚」 万延二年(一八六一)

〔解説〕 村に伝わる神楽・道祖神祭り、村芝居などに使う秘

蔵の器具類は、その保管場所の修覆などのさい、所在不明に

なったり散逸して不都合であるので、この帳面にすべての什物を記録し、以後もこれに書き継いでいこうというもので、芝居用具の烏帽子・下垂・甲・衣裳の記録六十数点があることから、かつては華々しく芝居興業が行われたことがうかがえる。

市川屋

久右衛門

小世八人

善之丞

富右衛門

獅子頭

甲府八日町

二文字屋

忠 蔵

小世八人

勝之進

市右衛門

神楽太鼓

大ど

南田中村

細工人

政兵衛

助右衛門

小世話人

一金卷両式朱

口 演 覚

一此帳面相仕立候儀者、昔より宝物相求候得共、修覆之節心当無之候得者不都合故、是迄之汁物凡ヲ以書付置候間、是ゞ以後者、此帳面江書付置べく候、以上

一目出度書始り

一金五両

神楽之宮、獅子之頭

甲府八日町

二文字屋

忠右衛門仕入

小世八人

周右衛門

同 民右衛門

神楽之宮、獅子之頭

甲府八日町二丁目

万延二年

酉三月日

一金四両式分

酉三月日

一七百分

満 作
重左衛門

一金拾耆兩貳分

道祖神幟り

丈式丈八尺上リニタはぐたり

ちもめん

縫ちん

共 染ちん

江戸新橋尾張町

布袋屋

善右衛門仕入

小世八人

同

一五百文

狐めん

同断

文久二年

戌十月六日

重左衛門

同

一三百五十文

鬼めん

同断

一貳拾耆又六分

藤 輪

同断

一金耆分

面 四ツ

小田原仕入

小世八人

藤左衛門

同

一六百七拾貳文

南部入口リ

耆組代

小世ハ

同断

浅草御藏前仕入

谷村新町増田屋

宗 助仕入

小世ハ人

富作

同

一銀拾八匁五分

帳面 細引五状 一冊

長帳 一冊

一金拾兩貳分

神楽之宮長持

太鼓だい共、棒代共

貯穀宝物万共控帳

同断

甲府柳町二丁目

和泉屋儀兵衛仕入

同

一銀拾老匁

五寸みきすぐ(ママ)

耆つい

小世ハ人

多右衛門

勝之進

小世話人

同断

子年

孫 八

八王寺八万忠兵衛仕入

一金老兩貳分

獅子頭

甲府仕入

小世ハ人

文久二年

一金老貳分朱

高張 二つ

同

一三貫五百文

ぶら 七つ

一金貳分朱

前ぎぬ代

其仕入凡ヲ以書印

のゝ五たん

大世八人

源市郎

平左衛門

同断

一金貳兩貳分

右染賃

一金三朱ト

かしぎを三味線代

同

一金貳分四百文

能々四たん

前いぎぬ

芝居衣せう求相付

同断

同

一金三兩貳朱

右染賃

下吉田大森

小世話人

仁右衛門

佐右衛門

同

一金壹兩壹分

神樂大ト

甲府仕入

小世八人

幸右衛門

多左衛門

栗どう小鼓代 甲府仕入

小世八人

幸右衛門

錢貳百文

同

一赤地縫形

一ツ

一木綿黒地上下共

一ツ

一袖着

一ツ

一さらさ上下共

一ツ

一赤地小袖着

一ツ

一金襴惑柏崎羽織り

一ツ

一木綿束ね(マ)

一ツ

一金辺柏崎

一ツ

一伊達上下モ白地

一ツ

一木綿柏崎

一ツ

一伊達赤地

一ツ

一大紋木綿

一ツ

一小立長袖

一ツ

同

一麻上下

三ツ

一黒縮緬襦袢

一ツ

一黒男着付

一ツ

一黒半天

一ツ

一火縮綿着付

一ツ

一金辺女着付	壹ツ	一小立長袖	一つ	一甲	一つ	富作
一桃辺女着付	一ツ	一紫振袖	一つ	一す々ほそ	二つ	作右衛門
一金男着付	一つ	一花辺と小立	一つ	一切ませ羽織り	一つ	其右衛門
一桃辺男着付	一つ	一胸当	一つ	一麻大紋	二つ	栄左衛門
一鍬 <small>(鍬カ)</small>	二つ	一黒小立	一つ	六拾六品也		多五藏
一女帯	壹トツ	一立烏帽子 <small>エホ</small>	一つ	一金四拾三両也		弁藏
一男帯	一ツ	一赤地大口	一つ			右大世話人
一火縮綿振袖	壹つ	一鍵幅羽織り <small>ハハ</small>	一つ			萩右衛門
一羽形とてら	一つ	一黒幅羽織り	一つ			源右衛門
一靄ノ上着付	一つ	一木綿羽織り	一つ			孫八
一さらさき長 <small>ガ</small>	一つ	一鯉 <small>こ</small> 一とゑ	一つ			治郎左衛門
一綸子女着付	一つ	一大嶋どてら	二つ			慶応元年
一火縮緬襦袢	貳つ	一白木綿着付	一つ			丑四月吉日
一上火縮緬振袖	一つ	一無袖羽織り	一つ			
一黒大形着付	一つ	一丸ぐけ帯	壹つ			
一縮緬貳枚口振袖	一つ	一女帯	一つ			
一男黒着付	一つ	一下たれ	一つ			
一手甲	一つ					
一行纏 <small>はしき</small>	一つ					
		庄左衛門		一金拾九両		大まく
		幸左衛門				縫賃つりかん共

慶応元年

丑七月吉日

大世話人

萩右衛門

源右衛門

孫 八

治郎左衛門

小世八人

重左衛門

森右衛門

一金三分式朱

一金式朱

慶応三年

卯三月

大笛式本

濟箱二ツ

一金三分式朱

女帯巻す志

世話人

弥 兵衛

森右衛門

伝 七

庄 三良

慶応四年

辰七月

覚

一金壹両三分

大世話人

弥 五七

庄左衛門

弥 兵衛

森右衛門

酒錫 三方

世話人

仁右衛門

源右衛門

伝 七

徳之進

明治二己巳年

七月七日

覚

一金七両也

龍土水 拾二丁

右世話人

明治貳年

己巳七月 日

明治四年

御見舞 大田ハ はな

一金巻 分

未六月廿三日

一 仁右衛門

一 源右衛門

一 伝七

一 徳之進

一金貳両

式歩^(分)三朱五百七拾五文

縫之進

明治五年

太右衛門

申七月廿二日

幸吉

仁右衛門

(鳴沢村役場蔵)

7 「家督相続一件につき一札」 慶応三年(一八六七)

〔解説〕 喜右衛門の相続者平吉は、日ごろ放蕩・不屈きな所業が多く、家督相続者として不適格者であるため、親族・組合のものが相談の結果、親類権左衛門の娘を喜右衛門の相続者に決定し、それが認められたので、当人・組合・親類の代表者らが連署して、村役人に差し出した証文である。

未年入用

一 ちやうちん

四張

大田和

一 稽古見舞

花共入用

差出申家督取定之事

一 今般私伴平吉儀不埒ニ付、組合・親類^(破レ)「^(破レ)」談之上、権左衛門むすめを以家督相続仕可申候筈ニ相定候間右之段御聞濟被成下候て、難在仕合奉存^(破レ)「^(破レ)」

之組合類(親)火力一同連印仕、差出申処如件

慶応三年

卯五月朔日

当人 喜右衛門 印

権 八 印

組合 幸左衛門 印

談右衛門 印

親類 権左衛門 印

御役人中様

(鳴沢・通玄寺蔵)